

会 議 録

会議の名称	令和 7 年度 第 1 回那珂川市文化芸術推進審議会		
開催日時	令和 7 年 7 月 31 日(木) 18:00～20:00	開催場所	中央公民館 講堂
出席者	1. 委員 田北委員、長津委員、簗原委員、柴田委員、鳥部委員、関岡委員、森委員 欠席:高坂委員 2. 執行機関(事務局) 鶴田社会教育課長、渡邊社会教育課文化振興担当係長、 小林社会教育課文化振興担当主事		
配布資料	【資料1】那珂川市文化芸術推進審議会設置条例 【資料2】那珂川市文化芸術推進審議会委員名簿 【資料3-1～3-5】令和6年度 那珂川市文化芸術アンケート調査結果 【資料4】那珂川市文化芸術推進計画 令和6年度実施内容 【資料5】那珂川市文化芸術推進計画 令和7年度実施内容(案) 【参考資料】1.那珂川市文化芸術推進計画 施策体系一覧 2.令和6年度審議会資料(令和6年度事業) 3.令和6年度審議会資料(令和7年度事業) 4.那珂川市文化芸術推進計画 施策実施スケジュール(案)		
公開区分	開示 ・ 一部開示 ・ 非開示 (理由:情報公開条例第 9 条第 2 号に該当)		
議題及び審議の内容 (次第 2 まで事務局で進行) 1. あいさつ 2. 会長・副会長の選任 須川前会長の委員退任による選任【資料 1】【資料 2】 →審議会設置条例に基づき、委員の互選により選出。 会長に田北委員、副会長に長津委員。 (以下、会長が進行) 3. 報告事項 (1) 令和 6 年度 那珂川市文化芸術アンケート調査結果について 【資料 3-1 ～ 3-5】 事務局から資料に沿って説明			

(質疑応答・意見交換)

[委 員]: 計画策定時に行った市民や文化団体へのアンケートとは別に、より具体的な施策を検討するために実施されたという理解でよいのか。また、このアンケートは、毎年行うものなのか、結果は公表されるのか、といった前提についてもう少し詳しく知りたい。

[事務局]: お見込みのとおり。計画の実行段階に入り、各施設の具体的なニーズを把握するために実施。現時点では毎年の実施は考えておらず、今回の結果を基に計画前半の事業を検討予定。結果の公表について、今回の会議資料としてホームページ等で公表する対象になる。また、アンケートに回答いただいた学校や施設等に提供する方向で検討。

[委 員]: アンケートを行った結果、どういうニーズが求められていると感じているか。

[事務局]: アウトリーチ事業の要望が多く、課題も時間や人材の不足という部分で共通していたため、なるべく各学校・施設に負担をかけない形で文化芸術活動を届ける形が求められている。また、学校・施設によって現状の活動状況に差があるため、そのあたりを補完する支援も必要。

[委 員]: 資料 3-3 の社会福祉施設の結果について、高齢者施設と障がい者施設が一緒に集計されているが、両方でニーズに違いがあるように感じる。より正確なニーズ把握のため、分けて分析すべきではないか。また、学校など教育施設と比べて、現状の活動に「満足していない」という回答が多い点が気になっており、アウトリーチとは別に、どういったことがどういった場所でできるかを示したガイドラインの作成など、潜在的なニーズを持った施設の活動のきっかけとなるような支援も重要。

[事務局]: ご指摘の通り、施設による状況の差は大きいと認識している。今後のヒアリングでは、施設の種別ごとに状況をさらに詳しく伺い、ニーズの深掘りに努める。

[委 員]: 小中学校での文化芸術活動は、授業なのかクラブ活動や部活動なのか、どのような時間のイメージなのか把握しているか。

[事務局]: 質問の作り方の問題で、今回のアンケートではそこまで細かい部分は把握できていないため、より細かい部分を知るためには追加のヒアリング等が必要だと考えている。

[会 長]: 記憶が曖昧なため、確認したいが、今回のアンケートの細かい質問項目については昨年度の審議会では諮っていないのだろうか。

[事務局]: 1 回目の審議会でご意見をいただいて修正したものを、2 回目の審議会では報告はしているが、アンケート実施のタイミングの兼ね合いもあり、細かい文言などは審議会では諮れておらず、当時の須川会長にのみ事前に確認していただいた形だったと認識している。

[委 員]: 小学校のアンケートの演芸分野の項目で、「詩吟」の鑑賞活動を行っている学校があるが、これは松口月城さんに関わりのある活動か。

[事務局]: 文化協会にも詩吟の団体がいらっしゃるので、そちらとの関わりの可

能性もある。

[委員]：那珂川北中学校で6月に9回、那北塾という取り組みをしており、その中に詩吟の内容が入っていたので、もしかしたらそちらとの関わりの可能性もある。

[会長]：文化芸術の範囲は広いので、活動実施の有無を聞くと実施したと答えられてしまう傾向が強いと思う。各施設でどういった方針を持って取り組んでいるのかということも含め把握すべきではないか。今回の調査で、まずは実態が把握できたという意義はあるが、課題感についても、この聞き方だと「自分たちではできないから市でやってください」という回答の傾向になりがちだと感じた。今回の結果をこの審議会はどう受け止めてどう生かしていくべきなのか、事務局の考えを聞きたい。

[事務局]：アンケート前半の分野ごとに活動実施の有無を聞いている部分は、あくまで現状報告という形で、必ずしもその分野が少ないから、その分野に関わる施策を実施しないといけないというわけではないと考えている。今回のアンケートで、各学校・施設の課題感を把握して、今後どのような施策が有効であるのか考えていくべき部分であり、アウトリーチについては、受け入れる側も受け入れやすく、取り組む側も取り組みやすい形だと考えている。相談窓口についてもこの回答を選択した施設にヒアリングし、もう少し具体的な部分を掘り下げたいと考えている。結果について、今後の施策の方向性として、まずはアウトリーチという方法が有効なのではないかと受け止めている。

[委員]：アンケートに回答した学校名や施設名は、匿名ではなく、事務局側では把握しているのか。

[事務局]：学校・施設名、回答者の役職、氏名を把握している。今後、ヒアリング等を行う場合は、その方を窓口として進められるのではないかと考えている。

[委員]：恐らくその情報がかなり重要になる。今要望があるものに応えるだけでなく、潜在的に本来文化芸術にあるべきもの、目指すべきものがこの計画の中には入れ込まれているので、その部分も含めどのように掘り下げていけるかという視点も今後大切。小中学校に関していうと、そもそも学校の教科教育に市が提案できる余地があるのか。

[委員]：同意見。文化芸術に関わる鑑賞や表現活動は、教科教育の中で行う必要があるものとして位置付けられているので実施している、という学校が多い傾向だと思う。それぞれの学校独自で実施している内容もあるとは思うが、演劇や演奏の鑑賞会についても、学校ごとに持ち回りで、今年はこの学校で実施するというのが予め決められていて、それに基づいて実施されているので、教育委員会の内部で予め連携し決めた内容をおろしてもらえた方が学校としては実施しやすいのではないか。

[会長]：そのあたりの前提条件が見えてくると、市として取り組むべき方向が

見えてくるのではないか。各学校の教科教育の中で取り組まれていることとは分けて判断した方がよいと思う。もう少し解像度を高くとらえて、今後の事業に活かしていただきたい。

(2) 那珂川市文化芸術推進計画 令和6年度実施内容について

【資料4】【参考資料1】【参考資料2】

事務局から事業No.1、3、7について説明

(質疑応答・意見交換)

[会 長]: 令和7年度の予定という部分は、後ほどの実施内容の方に含んでいるのか。

[事務局]: 文化芸術イベントカレンダーについては令和7年度も継続して実施している。アンケート調査の部分は令和7年度以降に実施していく施策に生かしていくという内容で記載。

[委 員]: 5年目で計画の見直しを行う予定だと思うので、この5年間の見通しを立てるためにロードマップを作成した方がよいのではないか。

[事務局]: 昨年度の審議会では参考資料の2や3のような形でそれぞれの年度で取り組む内容を示していたかと思うが、一番最後につけている参考資料4については、令和7年度から8年度に実施する内容を整理し今回作成した資料になる。5年間の内容は示せていなかったが、基本的には昨年度2回目の審議会で説明した内容で進めたい。

4. 審議事項

(1) 令和7年度実施内容(案)について

【資料5】【参考資料3】【参考資料4】

事務局から事業No.2、6、10、13、18、19、21、22、23、24について説明

(質疑応答・意見交換)

[委 員]: 学校現場は多忙で、新しい事業に自主的に手を出す余裕がないのが実情。事業を推進するには、市と教育委員会が緊密に連携し、学校が取り組むべき事業として明確に位置づけていただくことが不可欠。また、情報伝達の方法として、全児童・生徒に配布されているタブレット端末の活用が有効。イベントカレンダーへのリンクを掲載するなど、子どもたちが直接情報にアクセスできる仕組みを構築してほしい。校区外であっても、ミリカなど市の施設であれば子どもたちだけでも行くことができるので、市の施設で行われるイベントの情報を中心に掲載していただきたい。授業の中で、子どもたちに「那珂川ってどんなところ?」と聞くと「川が綺麗」「カワセミがいる」「ドンキがある」といった回答しか返ってこないのが実情なので、子どもたちが文化芸術のある市だと自信をもって答えられるようになるのが理想で、私は、その理想を叶

えるためにこの審議会に参加している。学校ごとに芸術分野の教科担任がいるので、その方々を集めての研修や既存の教員研修の中で周知の時間を作るなど、市で集約して情報を発信できる仕組みができればいいと思う。

[会 長]：関連して、小中学校に情報を定着させていくためのインフラ作りが大切。個別の事業だけでなくそれらを網羅するようなインフラ作りについても取り組んでいただきたい。広報についても提示された内容はやや限定的に感じるので、もう少し網羅的な取組内容になってくるとよいのではないか。

[事務局]：庁内における連携強化を含め検討していきたい。

[委 員]：学校だけに負担を求めるのではなく、各校に設置されている「地域学校協働活動」のような取組と連携することも有効。私たちも史跡めぐりなどの活動を行っており、そうした場で市の文化芸術に関する情報を提供してもらえれば、地域ぐるみで活動を広げていける可能性がある。また、夏休みの宿題の中に、文化芸術に関わる体験の内容を入れ込めると子どもたちも意欲的に取り組んでくれるのではないか。先生たちから伝えてもらう方が子どもたちに対しては、情報が伝わりやすいという側面もある。

[委 員]：文化芸術に関わる国や県の補助金についても、複数の学校で協力して申請するなど、何事もチームを組んで行うような、学校現場になるべく負担をかけない仕組みを作ることができれば一番いい。

[委 員]：子どもたちを対象に夏休みの英会話講座を行っているが、夏休み期間に行うイベントを一覧でお知らせできるとありがたい。

[会 長]：先ほど説明いただいたアンケートも子どもたちの声を直接聞いたわけではないと思うので、子どもたちの声を直接聞くというのも市の取組みとして非常に大切。ホームページやSNS、タブレットなど、子どもたちに情報を届けるツールとして何が適切なのかも含め検討していただきたい。

[委 員]：今回示されている事業の中には、予算要求の関係で、来年度以降実施するものも含まれていると思うが、ガイドブックの作成について具体的に検討しているのか。

[事務局]：紙媒体で発行するのが適切であるかを含め検討している。

[委 員]：できることとやらなければいけないことのギャップというのがあるとは思いますが、ガイドブックについては、ガイドブックそのもののデザインだけでなくツールの選択を含めたコミュニケーションデザインも含め、しっかり予算をかけて行うべき内容かと思う。また、芸術の分野はPDCA というよりは、AAR (Anticipate, Action, Reflection)、とにかくまずやってみてから振り返るというサイクルが大切で、何をやりたいか聞くのではなく、こういったことがやりたいというパイロット事業をまず提案してみると上手くいくのではないか。まずはミリカでやっ

ている事業を別の課の人と一緒に体験するというのも有効ではないか。

[委員]：先日、文化芸術推進計画の概要版を見返していて、中面の右上に小さく書かれた文章が一番大切なことなのではないかと改めて気づかされた。文化芸術活動を通して「新しい気づき」や「新しいつながり」が生まれることを意識して、日々の活動に取り入れている。

[会長]：情報発信について、市のホームページが「文化財」の情報に偏っており、本来の「文化芸術」全般の情報が探しにくいという課題がある。SNSの活用なども含め、ターゲットに届くコミュニケーション戦略をしっかりと立ててほしい。LINE からホームページにアクセスされた数なども検証しつつ、その情報もあわせて改善していただきたい。

[委員]：全体を通して、市が単独で事業を推進するには限界がある。委員のみなさん含め文化芸術の専門家や、意欲のある市民団体など、適した人材や団体に事業を委託したり、協働したりする仕組みを構築すべき。アライバ作りのイベントで終わらせず、継続的で実効性のある事業にするためには、企画段階から多様な主体を巻き込む「つなぐ」視点が重要。

[事務局]：ミリカローデン那珂川含め関係団体と連携協力しながら進めていきたい。

[委員]：市の業務負担がかなり増えていると思うので、少し取組内容に傾斜をつけながら無理のない範囲で実施していただきたい。

[会長]：市だけで背負い込むのではなく、AAR のサイクルも意識しながら、市が始めたことでもなるべく周囲を巻き込んで、そのうち関わってくれた方が自走していけるような仕組みづくりができればいいと思う。

5. その他

(1) 次回審議会について

次回日程の調整、報酬の支払い方法について連絡